

# I 研究の概要

## 1. 背景と目的

発達障害の障害特性は生涯にわたりその基本的な症状は持ち続けることが特徴である。幼児期から学童期、思春期・青年期そして成人期と年齢段階によりその状態像は変容していく。学校教育においては、幼児教育から高等教育まで教育環境が違い、求められる適応能力についても大きく異なってくる。教育的支援の在り方については、その年齢や発達段階に応じて長期的、縦断的な展望を持ち、支援の連続性を視野に入れて考えていく必要がある。

小学校、中学校の義務教育段階では各自治体の研究指定校などを中心に、授業改善や学級経営の工夫、多様な教育形態の運用、支援員や通級の活用、個別の教育支援計画の作成等、先進的な取組の実践例が報告されてきている。

確定診断の難しい幼児期においては、幼児個人に対する支援が中心になること、何らかの発達上の困難に気づいていても特別な支援にはつながらないこと、保護者と共通理解の上で進めにくいこと等が課題として挙げられる。地域によっては、通級や特別支援教室のような取組が行われていたり、小学校への支援の引き継ぎを上手に工夫したりしているところもある。

高等学校については、文部科学省の発達障害支援モデル事業において、モデル校による実践が行われており、また、特別支援教育の推進に関する協力者会議の高等学校ワーキング・グループの報告が出されている。学科や課程別の違い、入試制度、特別の教育課程の編成そして就労支援など、障害児教育の土壌のないところでどう教師の意識改革を行い、特別支援教育を進めていくかが課題となっている。

本研究は、先行研究となる「小・中学校等における発達障害のある子どもの教科教育等の支援に関する研究」（平成20～21年度重点推進研究）の継続研究と位置づけている。小・中学校の通常の学級の教員が、学級における支援の必要な子どもについて、外部の専門家から指導・助言を受けられる機会はそう多くは持てない。そこで、前研究では、担任教師が授業や学級経営の中で日常的に支援に取り組めることを研究の目的として、教師自身がチェック、アセスメントを行い、できるだけ負担感なく具体的な支援を行うことができる支援ツール（以下学級サポートプラン）を作成した。

発達障害のある子どもの学習上の課題は、個人の障害特性によるものと学習環境によるものの両面から考える必要がある。通常の学級において個別的な支援を行うためには、学級全体が落ち着いて学習に取り組める環境が重要である。前研究では、学級全体へのわかりやすい支援が、個別的な支援の工夫にもつながっていくという仮説のもと、授業改善、学級経営の視点で研究をまとめた。研究のまとめにあたり、アセスメントをどう具体的な支援に活かすか、支援による効果をどう評価するのが課題として残された。前研究では、わかりやすい授業の工夫により、学級の子もたちの授業への参加態度などに変容が見られたが、学級サポートプランの活用が、学級全体へのわかりやすい授業の改善や支援の工夫につながることで、発達障害のある子どもにとっても教育的な効果があることの有効性についての検証が必要である。

本研究では、小学校、中学校における実践研究を通して学級サポートプランの適用性や汎用性を高めていくための有効性の検証を行うこと、そして、支援の連続性の視点から、幼稚園から高等学校に至る各ライフステージに応じた発達障害のある子どもへの教育的支援の在り方について、研究協力校及び地域事例の実践を通して検討することを目的としている。

## 2. 研究の方法

研究協力校の実践等を通して、学級サポートプランの有効性についての検証を行うとともに、発達障害のある子どもの幼稚園から高等学校に至るライフステージに応じた課題を整理し、各ステージにおける教育的支援の在り方についての検討を行い、支援の連続性について考察する。(図1)

### 研究1 幼稚園における支援に関する研究

- ・特別な教育的ニーズのある幼児と学級全体への支援の検討
- ・幼稚園と小学校との支援の連続性の検討

### 研究2 小学校における支援に関する研究

- ・学級サポートプランの活用とその有効性についての検証  
(個への支援と集団への支援、担任の活用から学校全体への活用へ)

### 研究3 中学校における支援に関する研究

- ・学級サポートプラン(あ・つ・みファイル)の活用とその有効性についての検証
- ・発達障害のある子どもへのテスト・アコモデーションの検討

### 研究4 高等学校における支援に関する研究

- ・気になる生徒への気づきと支援に関する調査(教員の意識調査)
- ・高等学校における支援の現状と課題の整理  
(文部科学省モデル事業等の実践から)

### 研究5 地域における支援のつながりに関する研究

- ・地域における支援体制、学校間の支援のつながりの在り方の検討  
(地域事例の取組を参考に)

研究協力校等の実践事例を通して進める。

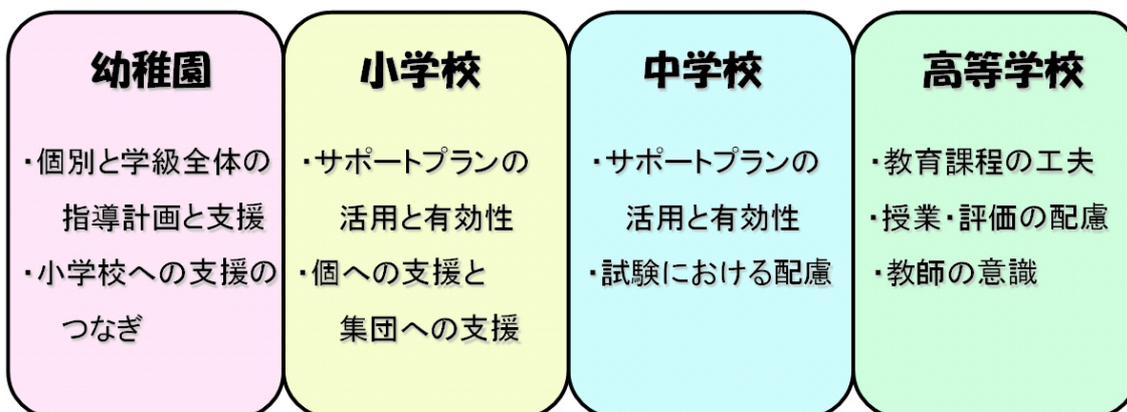


図1 研究の構想図